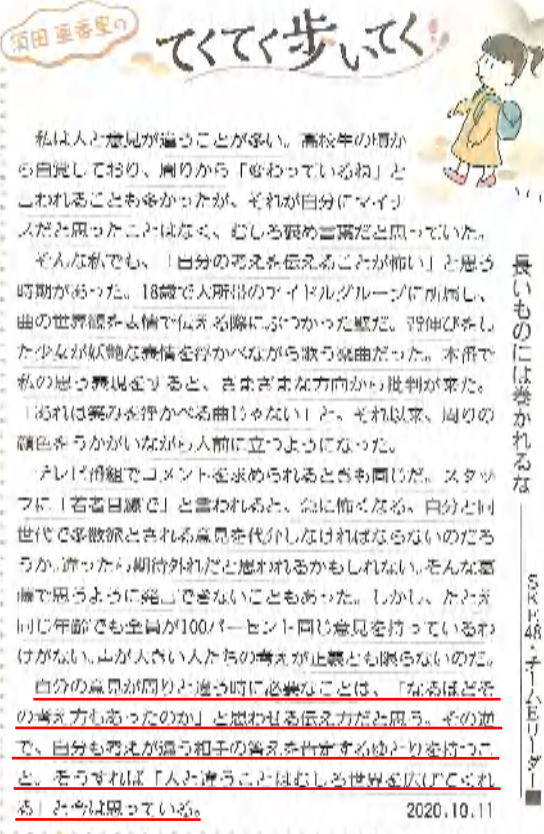




たいせい

# 大勢に流されないように

校長



私は、毎週日曜日の中日新聞を楽しみにしています。なぜなら、お目当ての記事が載っているからです。それは、SKE48 の須田亜香里さんのコラム「てくてく歩いてく」。毎週日曜日の県内版に掲載されています。

名前も顔も知りませんでした。しかし、平成 31 年 1 月に掲載された彼女の文章をきっかけに、私は須田さんに興味をもちました。それ以来、毎週欠かさず読んでいます。

この手のアイドルを見ると、皆同じ顔に見えてしまう「オジサン」にとっては、容姿や歌は関係ありません。彼女の前向きな考え方、謙虚な生き方が文章に表れており、若いのに自分自身に磨きをかけようとしているその人間性に魅力を感じました。よくわかりませんが、文章の隅には「チーム E リーダー」とあります。リーダーということは、やはり彼女には人の信頼を集める魅力があるのでしょうか。

11 日(日曜日)の中日新聞には、左の文章が掲載されていました。「長いものには巻かれるな」と題されたこの文章からも、多くのことを考えさせられました。華々しい芸能界の世界で生きる中でも、葛藤(心の中に相反する感情が起こって、思い悩むこと)があるようです。彼女はそれを避けず、勇気を出して自分を高める糧としてしています。それがこのコラムに綴られています。

彼女のこの文章の内容は、学校生活にも十分あてはまります。北中において、意見が違ふことで仲間外れにされたり攻撃を受けたりすることはないでしょうが、肩身の狭さを感じたり気まずい思いをしたりすることは結構あるものだと思います。仲間の発言に対して、多くの生徒が「わかりました」と反応する中で、一人だけ「わかりません」とはなかなか言えないものです。違ふ考えはあっても、大勢(多数派)がそれとは違ふ方向にいかうとしていけば、「私は」とはなかなか切り出せないですからね。学校には、少数派を大切にできているとは言えない現実がまだまだあると言えるでしょう。

今日から後期がスタートしました。同時に、第 4 期「つなぎ高める」も始まりました。この期のねらいを受けて、私は二つのことを生徒たちに話しました。

一つは、「つなぐ」は「全てをありのままに受け継ぐことではない」ということです。「前期がこうだったから」「前任者がこうだったから」「先輩がこうだったから」はたまた、「これまで(の自分)がこうだったから」と、同じことを繰り返すだけでは進歩はありません。むしろ、「現状維持は後退」です。自分の新しい立場で、どんな新しいことができるかをしっかり考えさせたいと思いました。うまくいなくてもよいのです。間違えてもよいのです。「前例どおり」「これまで通り」という大勢に容易に流されるのではなく、自分がやりたいこと、自分が工夫したいことをしっかりとつとめることがまずは大切です。

二つ目は、「高める」ためには「勇気を出して、自分や自分たちの弱さに切り込むことが必要」ということです。須田さんは、某テレビ番組でコメントを求められたとき急に怖くなったようです。つまり、自分と同世代の多数派（大勢）に流されそうになったのですね。しかし、彼女はその自分の弱さに自分で切り込みました。「声の大きい人たちの考え方が正義とは限らない」という言葉がまさにそれですね。そこから彼女は、最後の段落に書かれている赤いアンダーライン部分の結論に達したのです。「高める」を自ら示した須田さんでした。

本日、後期生徒会執行部及び専門委員長の認証式を開催しました。第4期のねらい「つなぎ高める」は、まずはリーダーである彼らの姿で全校に示してもらいたいと私は思います。同じ立場でも前期と後期は違うという印象を、どの委員会においても全校生徒に焼き付けてください。「例年通り」「前期と同じ」という大勢に流されず、ひと味もふた味も違う生徒会活動を展開してほしいと願っています。

同様のことは学級組織についても言えます。後期の組織になって、学級はどのように変化するのでしょうか……そんなワクワク感をもって残りの時間を過ごしたいですね。さあ、あなたは自分の立場において、どのように「つなぎ高める」つもりですか。期待していますよ！



村田生徒会長（左）から任命書を受け取る鈴木広報委員長

10/7、8

## 1年生福祉体験学習



手話について学びました。

「瑞浪の福祉」をテーマに、瑞浪市社会福祉協議会の協力の下、1年生が「手話体験」「車いす体験」をしました。手話や車いすに初めて触れる生徒も多く、生徒たちは興味をもって学習に取り組みました。互いを思いやって行動することの大切さ等について学ぶ、いい機会となりました。

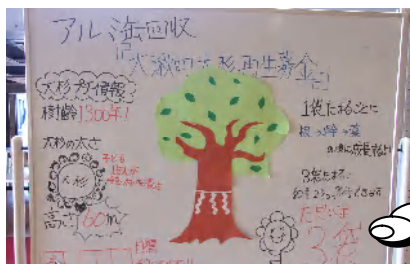
## 10/5～10/23 校内大湫大杉写真展

「地域貢献」は、瑞浪北中学校の重点のひとつです。今年度は地域のボランティア活動の一環として、生徒会主催のアルミ缶回収を行ってきました。そして今回はその収益金を、大湫町神明神社の大杉再生活動のために募金します。

募金の申し出を大湫町の代表の方にお伝えしたところ、大杉の写真を校内に展示する旨の提案をしてくださりました。現在、校内で大杉の写真展を開催しております。昼休み等を使い、生徒たちは興味深く写真に見入っています。地域の自然や文化、そして、地域の方々のご厚意や愛情に触れ、生徒たちは地域への愛着をますます深めることでしょう。



NHKとメーテレの取材を受けました。



生徒会が主となり、アルミ缶回収の呼びかけをしています。